

## 欧州市民イニシアチブで提案された政策案

### 「ストップ（（（5G）））つながっても保護される」

[https://europa.eu/citizens-initiative/initiatives/details/2021/000009\\_en](https://europa.eu/citizens-initiative/initiatives/details/2021/000009_en)

欧州市民イニシアチブとは、2009年に発行したEU基本条約「リスボン条約」で導入されたもので、EU市民が直接政策決定過程に参加できます。反映できるようになっています。

日本では陳情や請願しかできませんが、欧州市民イニシアチブでは、市民の側から政策提言でき、欧州議会を通して市民の声が反映されるのです。

今回登録された法案は、EUのホームページで公開されています。来年三月1日から1年以内に、EU域内の7つ以上の国で100万人以上の賛同署名を得られれば、欧州委員会はこの法案を検討・対応しなければいけません。

### 「ストップ（（（5G）））つながっても保護される」

#### 目的

5Gの導入は、健全な環境、自由、プライバシーに対する私たちの権利を危険にさらしている。我々は、欧州委員会（EC）に対し、以下の脅威から市民及び環境を保護するための法律を提案するよう求める。

1. 人間、動物、植物は電磁波によって害を受けている。現在の曝露限度では防護が不十分であり、特に脆弱な人々(子ども、妊婦、患者、高齢者)、動物、受粉に関わる昆虫および植物に対しては不十分である。  
—すべての生命を無線周波数およびマイクロ波電磁波から保護するための規制を制定すること。
2. 5Gと共に、接続される電子機器、アンテナ、衛星の数が爆発的に増加する。持続不可能なエネルギー消費、電磁波の放出、有害な重金属の採鉱と環境汚染が続き、生物多様性と自然生息地を危険にさらす。  
—5Gおよびデジタル化のあらゆる影響から環境を保護するための、より強力な規制を制定すること。

3. 5Gは、接続された機器による大量のデータ収集と監視を可能にする。これにより、サイバー犯罪、データ漏洩、盗難、転売、および人工知能（AI）を悪用するリスクが高まる。

—私たちのプライバシー、セキュリティ、自由を守るための効果的なデータ保護を実現すること。

## 附則

無線周波数電磁波とマイクロ波電磁波から、全ての生命を守るための規制を制定すること。

最近の研究を含む、産業界から独立した数百件ものピアレビューされた科学的研究は、無線周波電磁場（RF EMF）が現在の制限値より数百万倍低いレベルでも有害な生体影響を持つことを証明している。私たちは、環境と人間の健康に対するリスクから守るために、RF EMF に対して予防原則を適用することを要求する。

## 欧州連合法で実施する 10 の提案

1. 熱効果の影響だけでなく、すべての健康影響と生物学的影響に基づいた RF EMF 被曝制限を設定すること。

—すべての子ども、妊婦、患者、高齢者、病弱な人、電磁波過敏症（EHS）の人々、この電磁波で害された人々、電気医療機器やインプラントを使用する人々を重視して、予防原則を適用すること。

2. 勧告 1999/519/EC（訳注：EUの電磁波防護指針に関する勧告）および職場指令 2013/35/EU をアップデートする。これらは「定期的に見直し、再評価すべきである」

3. 勧告 1999/519/EC および職場指令 2013/35/EU は、「入手可能な最良の科学的データに基づかなければならない」。私たちは、下記を含む入手可能なあらゆる科学的、実証的ガイドラインのなかで、規制値が最も防護的に設定されることを要求する。

- ・ 欧州評議会決議 1815
- ・ バイオイニシアティブ報告 2012
- ・ 生物学的評価ガイドラインの作成
- ・ EUROPAEM EMF ガイドライン 2016

4. 生物医学の専門知識を持ち、業界と利益相反がない科学者によって、付加的な被曝ガイドラインが作成されることを保証すること。RF EMF の生物活性指標

を評価するために、新しい専門家委員会を任命するか、S C H E E R（保健衛生・環境及び新興リスクに関する科学委員会）の活動を拡大すること。

5. 無線機器、アンテナ、およびそれらの動作のテストで、RF EMF のあらゆる生物学的活性指標が評価されることを保証すること。

6. 無線接続を有線に置き換えること。病院、幼稚園、学校、老人ホームとすべての公共施設などでは、直ちに実行すること。

7. 無線接続に伴う危険性と、被曝を最小限に抑える方法(例:有線の使用)について、一般の人に教えること。

8. 加盟国に対し、自治体に低・無電磁波のゾーンを提供するよう勧告すること。すべての自然保護区と公園に、低・無電磁波区域にすることを宣言すること。

9. 人間の健康と生物学的全体性を保護するため、EU市民がRF EMF に曝される前に、インフォームド・コンセントを求めること。

10. 予防原則に基づき、動物と植物相を保護するためのRF EMF 被曝限度に関する指令を制定すること。

### **5Gやデジタル化の影響から環境を守るための規制強化**

5Gとモノのインターネットの導入は、省エネと持続可能な未来に向けての一步ではなく、汚染と資源枯渇に大きく関わるだろう。2025年までに、それらは世界の電力消費の20%を占めることになる。

### **欧州連合法で実施するための8つの提案**

11. 5G展開と全ての電気通信を含めて指令2011/92/EUをアップデートし、附則1のプロジェクトとして、このようなプロジェクトが指令によって規定された環境アセスメントまたはスクリーニングの対象となることを確保する。

12. 欧州グリーンディール（訳注：2050年までにEU域内の温室効果ガス排出をゼロにする）の行動計画において、有線および低エネルギーの解決策を優先することによって、デジタル通信技術で生じる大量の電力消費を削減すること。

13. 「電気・電子機器廃棄物」（WEEE）、その他の廃棄物、および電子機器に使用されるレアアース鉱物や金属の採掘による環境への影響を「ゼロ汚染行動計画」に含めること。

14. エコデザイン指令を2009年版から改訂し、アンテナと衛星を含む全ての接続デバイスの資源とエネルギーの浪費に厳しい制限を設定すること。

15. RF EMF の全ての生物学的に有害な指標を汚染物質として認めること。それらを、関連するすべてのEU政策と指令に含めること。

16 環境モニタリングプログラム、生物多様性戦略 2030、EU 自然再生目標、生息地・鳥類指令およびナチュラ 2000 に、RF EMF のあらゆる生物学的有害指標のモニタリングを含める。

17. 環境への悪影響が解消されるまで、世界中の 5 G 衛星メガコンステレーションの即時モラトリアムを求めること。

18. 全ての宇宙プロジェクトの環境影響評価を、欧州宇宙政策の優先事項にすること。

### **プライバシー、セキュリティ、自由を保護するための効果的なデータ保護の実施**

現在のデータ保護は、すべてのデバイスが私たちのデータを 24 時間 365 日収集し、差別を繰り返し、悪化させることが証明されている人工知能（AI）によってビッグデータとして処理されるような、人体とモノのインターネットのシナリオでは不十分である。また、5 G への投資の 70% が顔認識カメラやドローンなどの監視システムに向けられていることも非常に懸念される。

### **欧州連合法で実施する 5 つの提案**

19. 個人データ保護に関して、接続された機器や人体を含む 5 G の影響評価を開始し、現在のデータ保護法に対するコンプライアンスを評価すること。

20. 無線を通じた収集（医療データや銀行データなど）に対してデータ最小化の原則を適用することで、増加するサイバー犯罪から市民を保護すること。

21. 欧州データ保護委員会が、差別やデジタル権の侵害に対して積極的かつ独立して戦うことを保証すること。

22. それらのデータを自動化された手順で従わせるには、各市民の明確な同意を求めること。

23. 生物医学の専門知識を持ち、利益相反のない科学者が主導するデジタル・イノベーションを許可するかどうか、またはどの程度許可するかについての公開討論を組織すること：新しい倫理委員会を任命するか、EGE の活動を拡大すること。

訳：加藤やすこ、2021. 12. 14.